



学ぶ会の参加者からベトナムに行った時の話を聞きました。当初の予定にはなかったそうですが、地元の人から勧められた仏像を参拝したら、とても心地良かったそうです。国や民族が違っても、仏教と言う同じ背景のお陰様で良い経験になった様でした。

アジルー 良啓

今月二十六日に境内で音楽イベント「アジルー」が開催されます。普天間を拠点に活動するラテンバンド「カチンバ」が足元から宜野湾、沖縄を元気にしたいとの熱い想いで当寺が協力することになりました。私のライフワークである「お寺を身近に」に共感できる想いでしたので、携われる事にすごく興奮しています。出演者は、県内からうないぐみ（初代ネーネーズの古謝美佐子さん他）やプアヒナノ（タヒチアンダンス）、普天間一区青年会などがそれぞれ伝統的・土着の音楽を、海外からは台湾原住民アミ族のスミンさん、スペインバスク地方のミケルさんなどが民族音楽を奏でに来沖します。さらに、司会は沖縄文化を広く喧伝する幸田悟さんが担当します。なんと、幸田さんの生家がお寺の向かいで、子供の頃は境内で遊んでいたそうです。また、私も舞台出演します。声明と言う仏教音楽をご披露します。法要で唱える事はあっても、舞台で歌うのは初めてなので、緊張しますが、晴れ舞台を楽しみたいと思います。そして会場内には、飲食店も多数出店します。アルコールもありますので、美味しいお食事と心地良い音楽を聴き、又テグスイしてください。チケットは、寺務所にて取り扱っておりますので、直接またはお電話では非ご予約されて下さい。

寺務所
098-892-3335



身近にある仏教語⑤

裕俊

私達が日常的に使っている言葉の中には、仏教に係っている言葉がたくさんあります。そんな言葉を由来と共にご紹介させていただきます。

旦那

井戸端会議で奥様方が、うちのダンナが・・・と話に花を咲かせている様子が見られます。旦那という言葉は、サンスクリット語の「ダーナ」という言葉が元になっており、「布施」という意味の言葉でしたが、のちに日本では寺院・神社に布施をしてくださる方の事も旦那と呼ぶようになり、そこから現在のような意味で使われるようになりました。

さて、布施にも様々な種類があるのですが、簡単にいうと相手の為になる事や、物を「与える」という事です。皆様のご主人様、お父様は「旦那」としていかがですか？私は・・・精進せねばなりませんね。(笑)

